

# 仲間と共に運動を楽しむ児童の育成

～活動意欲を満たすための約束づくり・場の設定～

市之倉小学校 古川 稔彦

## 1 授業改善の視点

一人一人にとって価値ある全体追究に  
するためのルールづくりや場の設定

## 2 具体的な実践

### (1) 「易しいゲーム」の中で、誰もが充実感 や連帯感がもてるルールづくり

～4年生『プレルボール』より～

運動が得意な児童も、苦手な児童も、同じ運動をしていてどちらも楽しいと思える活動を工夫し、誰もが充実感が味わえる課題づくりをすること、連帯感をもつことができる活動を仕組みたい。

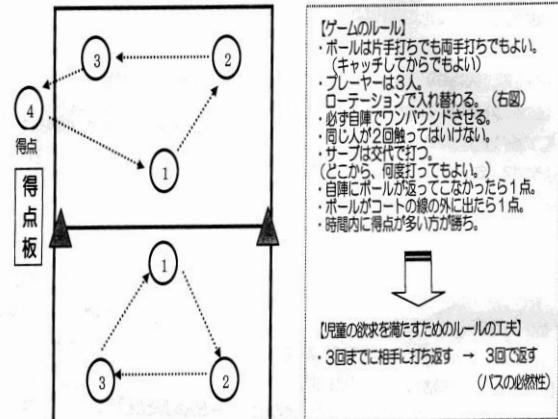
そのために大切な土台となるものがルール作りである。

『プレルボール』においては、次のような基本的なルール作りをした。

- ① ネットの高さ：40cm（図表-1）
- ② 相手コートに入りやすいように低い位置に設定
- ③ ソフトバレーボールを使用
- ④ キャッチOK（ただし1秒以内に投げる。）
- ⑤ サーブはどこから投げてもよい。また、入るまで行ってよい。（図表-2）
- ⑥ 相手に返すまでに1人1回しかボールに触れない。



図表-1 低いネット



図表-2 ゲームのやり方

### (2) 一人一人が課題に向けて練習することができるための場の設定

課題を達成するまでのステップは、児童一人一人異なる。特に「器械運動」に関わる運動は、その違いが大きいことがある。

誰もが意欲的に課題に向かうための場の設定をすることが大切である。

その工夫の一つとして、特設コーナーを準備したり、進むコースを明確にしたりする場の設定をした。

#### ① 実践1

～6年生『頭はね跳び』より～

自分にあったステップで繰り返し練習ができるようにするために、次の特設コーナーを用意した。

- ア ステージからのはね下り（図表-3）
  - ・高いところから下りることに慣れる
  - ・はねの動作を身に付ける
- イ ステージ上がり
  - ・腰を高く上げる
- ウ ポートボール台を利用した腰の高い位置からの試技
  - ・腰の位置のつかみ、慣れ
- エ 跳び箱の横にマットを敷く
  - ・落下する恐怖を取り除く



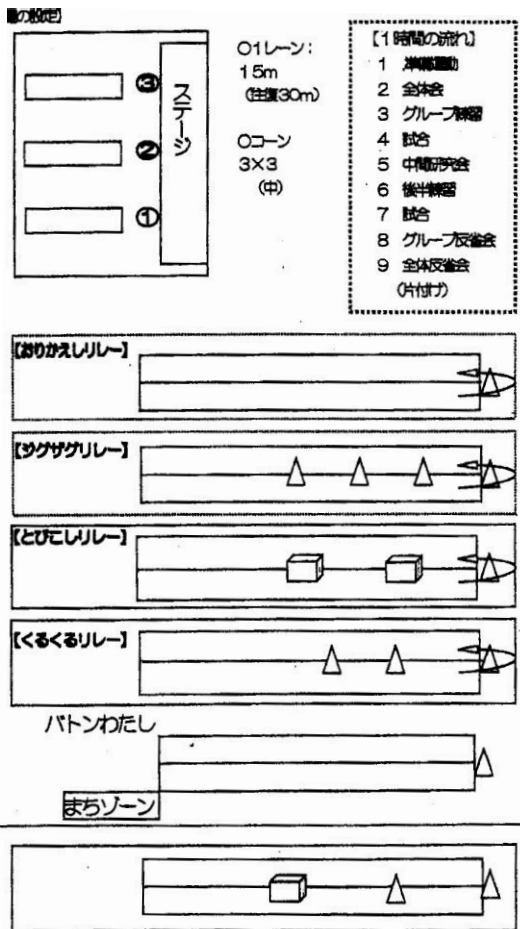
図表-3 ステージからののはね下り

## ② 実践2

### ～1年生『リレーあそび』より～

1年生であることから、走る距離は長くなってよい。走るときに目印になるものがあつた方が、まっすぐに走ることができたり、児童相互の学びにつなげたりすることができる考えた。

そこで、体育館の床にテープを貼り、次のようなコースを設定した。(図表-4)



図表-4 リレーコース

また、コース内の3つのコーンの設置位置については、走るときの「加速すること」や「コーンを回ることができるための適切な減速や身のこなし」の心地よさをより体感させるためによりよい位置を模索して、左下図のように右側半分(コースの中間部)に均等に配置することにした。(図表-5)



図表-5 3つのコーンの位置

## 3 実践を振り返って考えられること

児童は本来、運動することが大好きである。その「運動したい」という欲求を誰もが維持し、さらに高めることができるように、課題を設定し、活動の場や活動の約束を作ることが大切である。

それらが適切に設定できれば、児童は主体的に活動を続け、つまずきを仲間と共に克服して、ねらいにせまることができる。

「やりたい」→「できた」→「もっとできるようにになりたい」というサイクルを強化することで、児童はさらに仲間と共に運動を楽しむようになる。

そして、生涯を通して運動に親しむことへとつながっていくと考えられる。